

パンダに会おう ～上野動物園にも行こうシリーズ①～

右がトントンで、日本国内で繁殖に成功した1例目のパンダ。左がその父親のフェイフェイ。フェイフェイは1994年まで、トントンは2000年まで上野動物園で暮らしていたよ。



1階の左手側
ヤツデの葉の
展示の近くに
あるよ

地球 館 3 階 1/3

ヨシモトコレクション
進化の頂点・野生大型獣



1 フェイフェイとトントンに会おう～パンダの体の白と黒～

ジャイアントパンダ・・・食肉目（ **クマ** ）科



パンダのはく製を観察して、体の黒いところを塗ろう



（映像パネル）「動いている姿を見てみよう」（35秒の映像）

地球 館 1 階 24/1

栄養を求めて



2 ホアンホアンに会おう～パンダの指の秘密～

ジャイアントパンダには、竹をつかむための手のつくりがある



手の5本の指の他に、どのようなつくりがあるのかを右の図に書きこもう。

パンダの指の数は5本。手首の骨が大きく発達してできたこぶのような出っ張り（第7の指）と他の指ではさむようにして、タケの葉や筒の部分を握ることができる。実際に竹を握らせたパンダのCT画像から国立科学博物館（当時）の遠藤秀紀先生が発見した。



（映像パネル）栄養を求めて→獲物を捕まえるしくみを選択してみよう。映像の後半に、パンダが指以外のどこを使って竹をつかんでいるのかがとてもよくわかる動画があるので、見てみよう



1980年から上野動物園で飼育されていたトントンのお母さんパンダだよ。



できれば、
上野動物園へ



3

パンダの行動を観察しよう



パンダの行動を観察して、記録しよう。



◎ 竹のつかみ方

◎ 座り方

◎ 食べ方

◎ 歩き方

◎ 体のつくり

など、視点をもって
観察しよう

消化率が低い
パンダの糞は、
笹の香りがす
るみたいだよ。
糞も見つけら
れるといいね。



- ・竹のつかみ方：前足の周囲の骨が変化した偽の親指(「第7の指」とも呼ばれる)で押さえ込むようにしてつかんでいる。
- ・体形：他の動物と違い、パンダは大人になっても頭の比率が大きな「赤ちゃん体型」なのでかわいらしく見える。
- ・目：周りの模様でたれ目のように見えるが、実際の目は小さく上がり気味で鋭い。
- ・歩き方：栄養になりにくい竹が主食なので、体の消耗を減らすため動きは少ないが、本気を出すと時速30kmくらい(自転車と同じくらい)で走ることができる。ただし、めったにない。
- ・竹：静岡県伊豆半島の竹林で採取したモウソウチク、マダケ、ヤダケ、シノタケ、クマザサの5種類の竹を与えている。



パンダの体のつくりや行動で興味深いところはどのようなことか



感じたこと

わかったこと

考えたこと

- ・体の白黒模様：雪が降り積もる地域なので身を隠すため、目立つことで警戒色となって襲われないため、手先や耳など冷えやすいところで太陽の熱を吸収するためなど、いろいろな説がある。
- ・目の周りが黒い：雪の多いところに住んでいるのでサングラスの役目(諸説あり)
- ・食べ物：多くのクマ科と同じで本来は木の実や昆虫、ネズミなどを食べる雑食性だが、普段は竹林に住んでいて竹やキノコを主食としている。鋭い牙を持っている。結構グルメで味には敏感。上野動物園では、リンゴやニンジンほかに、“パンダだんご”と呼ばれる栄養補助を目的とした食事も与えている。パンダだんごはトウモロコシ粉、大豆粉、生卵、ビタミン類、ミネラルなどを水に溶いて蒸して作る人工飼料で、動物園でも健康で快適に暮らせるように工夫がされている。
- ・行動：昼夜の関係なく1日の半分は眠っていて、残りの半分は竹を食べている。1日に食べる竹の量は体重の1/4くらい。



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

学習指導要領「生物の体の共通点と相違点」において、身近な動物の外部形態の観察を行い、共通点や相違点を見いだして動物の体の基本的なつくりを理解し、それに基づいて分類できることを見いだして理解することとある。このような優れた骨格標本を活用することで、生徒の興味・関心を高め、深い学びを実現できる。

年

組

番

氏名